

## 令和8年度 予算編成方針の概要

## 【本市の財政状況】

## 将来の行政需要への備えとして前年度並みの財源を確保するも財政構造は硬直化

- ・ 令和6年度決算では、将来の行政需要への備えとなる財源である財政調整基金については前年度並みの残高を確保できたが、収支においては市税や交付税などの歳入増以上に人件費や物価高騰等による歳出増となり、前年度より悪化
- ・ 財政調整基金は、当初予算時では約13億9,800万円の繰入額を計上していたが、各部各課が事業の厳選、経費の縮減や財源の確保に継続して取り組んできたことで、3億8,000万円まで圧縮できたことは成果
- ・ 一方、令和7年度当初予算編成では、6年度と同規模の財政調整基金からの繰入れにより収支均衡予算を編成しており、現状では改善傾向にはない



令和7年第3回定例会後の財政調整基金残高 約28億2,000万円  
(前年同時期と比べ約1億8,000万円の減)

- ・ 財政力指数 0.469 ⇒ 5割以上を普通交付税に依存
- ・ 経常収支比率 95.0% ⇒ 90%を超える状況が続いている



政策的な事業の実施に使うことのできる財源が少なく、  
依然として、硬直した財政構造

## 【今後の財政運営】

## 効果的な事業の組み立てや業務改善等を推進し、行政諸課題に対応

## 今後の状況

- ・ 令和8年度以降についても、歳入の大幅な伸びは見込めない中で、人件費の上昇や物価高などの傾向は続くことが想定される

## 財政運営

- ・ 今後、財政状況が厳しくなることが見込まれるが、そのような中であっても、行政諸課題に対応するために、これまで以上に成果・効果を踏まえた事業展開や、業務改善による事務の効率化、より積極的な財源確保等に取り組む必要がある



財政状況が厳しくとも行政諸課題や公共施設の更新などに対応していくために、  
成果・効果を踏まえた事業展開、業務改善による効率化、積極的な財源確保が必要

## 【予算編成のポイント】

## 限られた財源をより効果的・効率的に配分

- ・ 行政諸課題を着実に解決に導き、真に必要な施策を適切なタイミングで実施するためには、限られた財源の効果的・効率的な配分が必須
- ・ 人口対策をはじめ、デジタル技術活用やゼロカーボンの推進に対し、予算の重点的な配分の視点を持って編成
- ・ これまで以上に事業の費用対効果や自主財源の確保を意識



これまで以上に事業の費用対効果や自主財源の確保を意識し、  
限られた財源を人口対策、デジタル技術活用やゼロカーボンの更なる推進の  
ための事業へ重点的に配分する視点を持って予算編成に取り組む

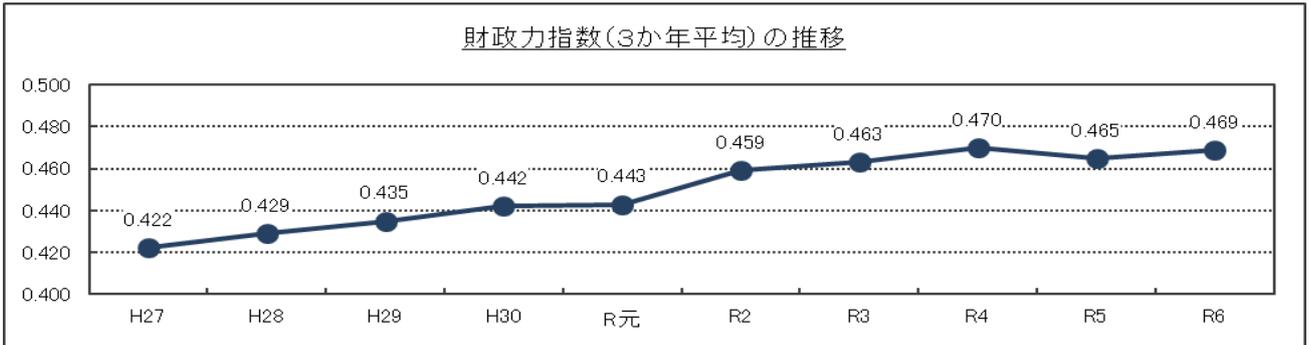
(参考) 財政状況補足資料

○一般会計の決算状況

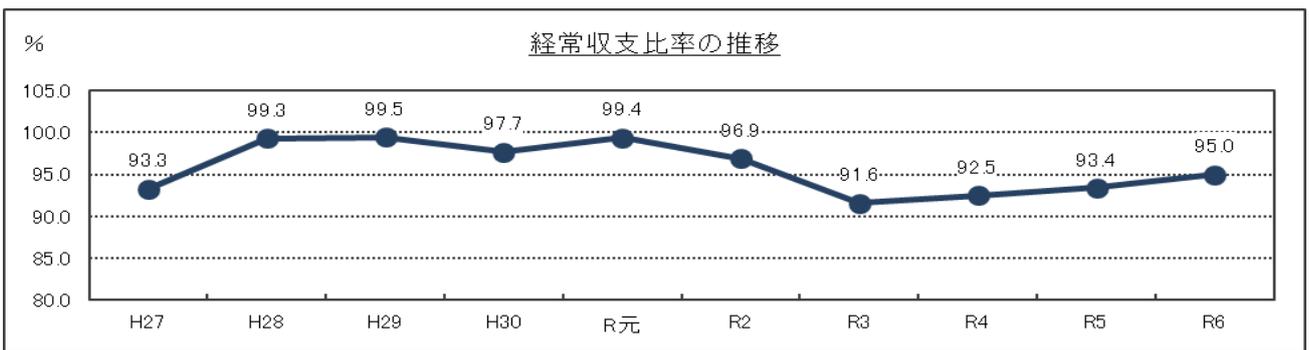
(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実質収支	1,922	663	221	216	141	166	1,695	1,441	1,285	200
単年度収支	1,422	▲1,259	▲442	▲5	▲75	25	1,529	▲254	▲156	▲1,084
実質単年度収支	1,744	▲298	▲410	▲194	▲517	▲155	1,612	598	564	▲817

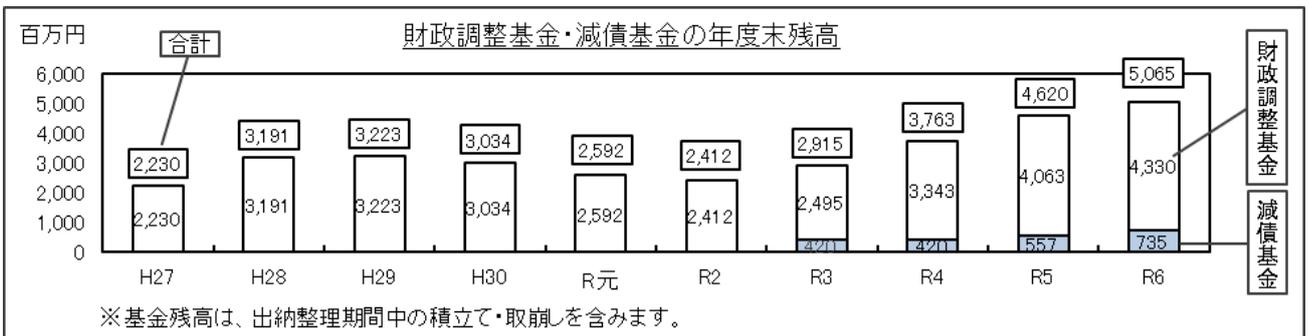
○財政力指数



○経常収支比率



○財政調整基金・減債基金の年度末残高



○当初予算編成における財政調整基金からの取崩状況

